

御室仁和寺(世界遺産)

888年の創建。宇多天皇が住まれたことで御室御所とも呼ばれました。江戸時代初期に建築された御所の紫宸殿を移築した金堂(国宝)や、再建された五重塔(重要文化財)などが建築美を見せ、雅で美しい御殿の宸殿や庭園、境内には名勝御室桜があります。



金堂(国宝)



国指定史跡仁和寺御所跡(旧御室御所跡)

国指定名勝 御室(サクラ)

古来から和歌や俳句に詠われた、樹高が低く遅咲きの御室桜は、「お多福桜」と愛称されています。

陽明文庫

平安時代中頃から明治時代までの約千年間に集められた、藤原北家の一つ近衛家に伝わる貴重な古文書や美術品等、約20万点の資料を保管しています。

住吉大伴神社

平安京遷都の際に、大伴氏の氏神を祀る伴氏神社として建てられました。平安時代末期に航海の神と和歌の神である住吉大神を合祀したと伝わる神社です。

轉法輪寺

1758年、僧闍通(かんつう)が開創。本尊の阿彌陀如来座像は高さ約7mの巨大なもので、桜町天皇のために造られたと伝えられています。

蓮華寺

音戸山から移築された寺で、境内に安置された五智如来像五体と、観音坐像十一体の石仏群は壮観です。

六請神社

創建は古く、衣笠山に葬られた人々の御霊を祀り、衣笠岳御霊社と呼ばれていました。天照大神(あまてらすのおみかみ)にはじまり六柱の神を祀っています。

きぬかけの路

春たつや たなびき初むる 霞さえ
まだ薄機 の 衣笠の山 加藤千蔭

御室仁和寺を開山した宇多天皇が、「夏に雪を見たい」と請われ、「衣笠山に白衣を懸けてお慰めした」という伝承により、衣笠山麓の金閣寺から仁和寺への道路を「きぬかけの路」と称されています。風光明媚なこの地域には多くの観光寺社があり、また、歴史に名を残す人々が祀られる墓所もあります。ほんなりした上七軒の花街から「きぬかけの路」を歩き、道筋にある歴史と見所をご紹介します。

龍安寺(世界遺産)

龍安寺は、妙心寺の境外塔頭になる禅宗寺院です。1450年に細川勝元が創建し、江戸時代後期に現在の姿となっています。山門から中門までの区域と、境内に広がる衣笠山を背にする鏡容池は国指定名勝で、「虎の子渡し」と呼ばれる枯山水式石庭の代表作である「龍安寺方丈庭園」が国の特別名勝・史跡に指定されています。庭の龍安寺垣、方丈(重要文化財)の北庭にある蹲踞(つくばい)や秀吉が賞賛したと伝わる佗助橋なども見所です。大珠院の境内には真田幸村と正妻の利世(竹林院)の墓と伝える石塔があります。



国史跡・特別名勝 龍安寺方丈庭園(石庭)

枯山水の方丈庭園は「虎の子渡し」の庭と呼ばれ、75坪の白砂に配置された大小15の石と遠近法の油土塀が特徴です。室町時代後期の禅僧の作と伝えられています。



蹲踞

銅銭の中心を「口」の字に見立てたへんやつくりとし、「吾唯足知(われただたるをしる)」という禅の言葉として読めるように彫られた蹲踞が方丈の北側に置かれています。水戸光圀の奇造といわれています。



成就山

御室八十八ヶ所霊場 成就山の山道沿い約3kmに八十八の仏堂が建ち、四国八十八ヶ所の札所の寺院と同じ本尊と弘法大師が祀られています。

襜褕地層

海底のチャートにより形成された地層の、何枚もの平行な縞模様が見られます。約2億年以上も前の地殻変動で波状に隆起した、襜褕地層の断面です。

野々村仁清窯跡石碑

野々村仁清は江戸時代前期の陶工で、京焼色絵陶器を完成したといわれます。号の「仁清」の「仁」は、仁和寺の門跡より与えられ、仁和寺門前に御室窯を開きました。

マキノ省三銅像

等持院境内には「日本映画の父」と呼ばれる、マキノ省三の銅像があります。大正時代、等持院境内にはマキノ省三が建設した撮影所がありました。

北野天満宮

学問の神・菅原道真を祭神とする、天満宮の総本社です。本殿、石の間、楽の間、拝殿からなる権現造(ごんげんづくり)社殿(国宝)、所蔵される道真の天神縁起絵巻「北野天神縁起」(国宝)が有名です。また、豊臣秀吉が行った「北野大茶会」の井戸跡や御土居跡、50品種・約1500本の梅の木が境内にあります。

北野麁寺跡石碑

北野白梅町付近にあった飛鳥時代から平安時代の寺院跡とみられています。文献には寺院名がなく、地名を取って北野麁寺と呼んでいます。

史跡 御土居

境内西側には豊臣秀吉が築かせた御土居があります。京都の街を囲む土塁の跡で、御土居上の散策路には御土居より古くなりますが、樹齢600年といわれる大榎(おおげやなぎ)や、梅林と紙屋川を望む展望台があります。

伴氏社

伴氏の一族である菅原道真の母を祀った神社です。額家が島木に割り込んでいたり、鳥居の柱を支える台座には蓮弁が刻まれており、蚕ノ社(かいこのやしろ)、厳島神社(京都御苑内)と並んで京都三珍鳥居の一つです。

きぬかけの路



～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

きぬかけの路周辺の発掘調査

きぬかけの路周辺の遺跡には、北側の山地に衣笠山古墳群や住吉山古墳群がみられます。いずれも分布調査で確認された古墳時代後期の円墳です。飛鳥時代は北野白梅町交差点周辺の発掘調査で発見された北野廃寺があります。また、交差点の南西の発掘調査では、当廃寺の瓦を焼いた窯跡があったこともわかり、調査により寺域や変遷も明らかになってきています。平安時代になると仁和寺が建立され、近辺に天皇の御願寺(四円寺)が、双ヶ岡周辺に貴族の子弟が入寺する仁和寺の院家が相次いで建てられ、平安時代後期には70を超える数の子院が建立されました。四円寺の一つである円乗寺跡の発掘調査や円宗寺跡の立会調査では、建物や溝跡が見つかり、溝内からは多量の瓦が出土しています。また住吉山南麓には「徳大寺」と称された山荘が置かれ、室町時代にはその跡地に龍安寺が創建されます。近年の龍安寺御陵ノ下町(ごりょうのしたちょう)遺跡調査では、山荘に関連する平安時代後期から鎌倉時代の遺構が発見されています。近世は、キリスト教の布教を示すキリシタン墓碑が、一条通紙屋川近くの立会調査で多数発見されています。

5 史跡仁和寺御所跡

仁和寺は光孝天皇の勅願により仁和二年(886)に着工、仁和四年(888)宇多天皇により落成しました。宇多天皇は落髪後、寺内に御室を営んだため御室御所とも称されました。応仁・文明の乱などの兵火により建立当時の建物は焼失し、現在の堂塔は天正年間(1573~92)および寛永年間(1624~44)の再建です。2000年、仁和寺境内の発掘調査で、平安時代後期から江戸時代の西側境界を示す築地や溝などを発見しています。また、2009年には西側の土塙解体修理に伴う発掘調査で、土塙築地は江戸時代後期に造られていたことが明らかになり、仁和寺西辺の拡大や再興、土塙の構造の変化などを知ることができました。



築地跡と側溝跡(江戸時代前期)



仁和寺西側土塙の基底部と石垣

12 北野廃寺

北野廃寺は出土した土器や瓦から飛鳥時代に建立され、平安時代まで存続した寺院跡と考えられています。飛鳥期の遺構としては瓦葺み基壇(推定講堂跡)・築地状遺構・溝・土坑などが発見されています。また、1979年の発掘調査では白鳳期の塑像(そぞう)の仏像頭部が発見されました。仏像頭部は法隆寺五重塔本塑像群の文殊菩薩像と類似していました。また1977年の発掘調査では平安時代の陶器に「船室」(いかるがのむろ)と書かれた墨書土器が見つっています。1979年の発掘調査では平安時代前期の土師器に「野寺」と書かれた墨書土器も見つかり、平安時代には当寺院が、文献に見える桓武天皇が薬師如来を安置したという野寺とも呼ばれた常住寺であることが明らかになりました。



築地跡と溝跡(飛鳥時代~奈良時代)



軒丸瓦(白鳳期)

塑像の仏頭(白鳳期)

67 四円寺跡

四円寺とは平安時代中期後半、仁和寺近辺に建てられた、寺名の頭に「円」の字を付けた円融寺、円教寺、円乗寺、円宗寺の四箇寺の総称です。1984年から1988年にかけて、発掘調査や下水道工事に伴う立会調査で、建物跡や多量の瓦を発見しました。



四円寺跡推定地

6 円乗寺跡



溝跡と井戸跡(平安時代後期)

7 円宗寺跡



溝跡から出土した軒瓦(平安時代後期)

2



溝跡(平安時代)



溝跡が埋まった状況



「船室」と書かれた墨書土器(平安時代)

「野寺」と書かれた墨書土器(平安時代)

8 住吉山古墳群

住吉山古墳群は、これまでの分布調査で、住吉山の尾根上に古墳時代後期の円墳4基以上が点在していることが確認されています。2号墳は直径約17m、高さ約1.8mの規模で、内部主体は横穴式石室とみられます。石室の石材が露出するものもみられます。



露出している石が横穴式石室(2号墳)

9 衣笠山古墳群

衣笠山古墳群は衣笠山山頂から東斜面にかけて、古墳時代後期の円墳6基が、分布調査で確認されています。内部主体は横穴式石室とみられます。



衣笠山東斜面の古墳と露出する石室の石材

3 北野廃寺瓦窯跡

窯跡は北野廃寺推定寺域の南西部に位置しています。1979年の調査で瓦窯跡7基を発見しています。また立会調査でも瓦窯跡1基が確認され、飛鳥時代から平安時代前期まで、瓦の專業窯として操業されていたことが明らかになりました。また、瓦窯の構造は飛鳥時代は半地下式の穴窯で、奈良時代から平安時代前期には平窯で生産されていたこともわかりました。



中央の溝に沿って営まれた瓦窯跡(飛鳥時代)



窯跡の様子(飛鳥時代)



出土した軒丸瓦(飛鳥時代)

4 龍安寺御陵ノ下町遺跡

2010年8月に立命館大学衣笠キャンパス内の発掘調査で、平安時代後期から鎌倉時代の道路、溝、石組遺構、集石などを発見しました。これらの遺構は「徳大寺殿」に関連する遺構と考えられています。



道路跡(平安時代後期~鎌倉時代)



石で囲まれた墓跡(平安時代後期)



出土した土器片(平安時代後期)

10 キリシタン墓碑

キリシタン墓碑は、京都市内では一条通から下立売通周辺でまとまって出土しています。1981年に一条通紙屋川沿いの一条橋西側付近の立会調査で、キリシタン墓碑大、小の2基が出土しました。当時、キリスト教信者は幕府から迫害を受けていたため、数少ない遺品として近世京都の宗教のありかたを知る上で、貴重な資料となっています。



左から大型、小型のキリシタン墓碑 大型墓碑に刻まれた二支十字

